【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成19年11月15日(2007.11.15)

【公開番号】特開2006-108860(P2006-108860A)
【公開日】平成18年4月20日(2006.4.20)
【年通号数】公開・登録公報2006-016
【出願番号】特願2004-290006(P2004-290006)
【国際特許分類】
Ｈ０４Ｎ　5/44　(2006.01)
Ｈ０４Ｂ　1/18　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０４Ｎ　5/44　A
Ｈ０４Ｂ　1/18　B

【手続補正書】
【提出日】平成19年10月1日(2007.10.1)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２４】
第２の実施形態のブースタは、第１の実施形態のブースタと同一の構成であるが、バンドパスフィルタ２０の特性が、第１の実施形態とは異なる。第２実施形態のブースタには、図５に示すようにＵＨＦ帯の、２２、２４、２５、２７、２８チャンネルのテレビジョン放送信号が供給される。このうち、２２チャンネル、２４チャンネル、２７チャンネル、２８チャンネルが地上デジタルテレビジョン放送信号であり、２５チャンネルがアナログテレビジョン放送信号である。各地上デジタルテレビジョン放送信号はほぼ同じ電界であり、２５チャンネルのアナログテレビジョン放送信号よりも電界が大きい。従って、これら２２、２４、２５、２７、２８チャンネルのテレビジョン放送信号を従来のブースタを介してテレビジョン受信機等に供給すると、２５チャンネルのアナログテレビジョン放送信号は、２４チャンネルの地上デジタルテレビジョン放送信号によって混信障害を受ける。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２９】
なお、図７から明らかなように、２２チャンネルの地上デジタルテレビジョン放送信号は、２５チャンネルのアナログテレビジョン放送信号と、レベルコントロール１２を最大利得に調整しているときでも、最小利得に調整しているときでも、約１５ｄＢ乃至１７ｄＢ利得が小さいので、下側隣々々接の混信障害を２２チャンネルの地上デジタルテレビジョン放送信号が、２５チャンネルのアナログテレビジョン放送信号に与えることはない。同様に、２７チャンネルの地上デジタルテレビジョン放送信号は、２５チャンネルのアナログテレビジョン放送信号と、レベルコントロール１２を最大利得に調整しているときでも、最小利得に調整しているときでも、約２０ｄＢ利得が小さいので、上側隣々接の混信障害を２７チャンネルの地上デジタルテレビジョン放送信号が、２５チャンネルのアナログテレビジョン放送信号に与えることはない。